

学校施設の耐震診断結果の公表について

平成24年7月末日現在の状況について、公表いたします。

1. 耐震診断の対象とする建物

昭和56年以前に建築された非木造の延べ床面積200㎡以上、又は2階以上の施設。

※清川中学校体育館は旧耐震基準の建物であるため対象になります。

2. 耐震診断結果

学校名	棟	構造	建築年度	面積(m ²)	一次診断	診断結果(Is値)	二次診断	診断結果(Is値)	改修等
南部小	体育館	RC	S52	1,229	H18	0.76	H 21	0.34	補強完了
高城小	校舎 1-1 (教室棟)	RC	S55	1,897	H15	0.68	H 16	0.89	二次診断不要
	体育館	S	S56	685	H15	0.33	H 16	0.27	補強完了
南部中	校舎 1-1 (普通教室棟)	RC	S37	907	H18	0.39	H 21	0.42	補強完了
	校舎 1-2 (普通教室棟)	RC	S36	793	H18	0.39	H 21	0.42	補強完了
	校舎 1-3 (管理特別教室棟)	RC	S39	1,583	H18	0.25	H 21	0.33	補強完了
上南部中	校舎 11 (管理教室棟)	RC	S49	2,486	H15	0.24	H 21	0.35	補強完了
	校舎 12 (技術室棟)	S	S49	212	H15	0.49	H 21	0.81	補強不要
	体育館	S	S50	1,001	H15	0.27	H 21	0.22	補強完了
清川中	校舎 13 (特別教室棟)	S	S53	288	H15	0.54	H 21	0.34	解体予定
	体育館	S	S57	973	H15	0.55	H 21	0.75	補強不要
南部幼	園舎 1-1	RC	S43	115	H18	0.84	H 21	0.58	補強完了
	園舎 1-2	RC	S36	392	H18	0.84	H 21	1.12	補強不要

※RCは、鉄筋コンクリート造、Sは、鉄骨その他造

※Is値について

①建物の強度、②建物形状、③経年劣化の要因から決まる建物の耐震性を表す指標で、この指標に応じた安全性の目安は次表のとおりです。

構造耐震指標	0.3未満	0.3以上0.6未満	0.6以上
構造体力上主要な部分の地震に対する安全性	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い

なお、法律上の耐震改修の扱いについては、耐震改修促進法で定められており、Is値0.6以上であれば統計的に被害が少ないという結果が出ています。

しかし、学校の場合は公共施設としての重要性から、文部科学省がIs値0.7以上の建物を補強の必要がないものとしています。

1次（簡易）診断は、補強の要否の判定を行う精密診断（第2次診断以上）を行うかどうか検討するためのもので、RC構造の目標値はIs値 ≥ 0.9 、S構造の目標値はIs値 ≥ 0.7 です。